

平成29年度第2回学校評議員会報告

- 1 日 時 平成30年2月26日（月）15：20～16：10
- 2 場 所 本校小会議室
- 3 出席者 山形守平校長、清川義彦副校長、鈴木裕副校長、浅沼卓雄事務長、
佐藤淳子評議員、吉村泰樹評議員、土谷真理子評議員、星智寿子評議員、
蒲生秀磨（経営企画課主任）、松平一恵（経営企画課）

以上10名

4 内 容（議事録）【司会：蒲生】

（1） 校長挨拶

平素より本校に対しご理解ご協力をいただきありがとうございます。この冬インフルエンザが流行したが、本校は一番多いときでも全校で10名程度の欠席であった。部活動は大変頑張り、教育振興費が底をつくほどの活躍ぶりであった。SSH から本校独自の SRH となり、1年間試行錯誤の連続ではあったが、全員で課題研究にも取り組み、2月23日には発表会を実施し、御覧いただいた指導助言者の方からも評価をいただいた。

今後も主体的・対話的で深い学びとなるよう取り組んでいきたい。本日は皆様方から忌憚のないご意見を頂戴したい。

（2） 学校概況説明

【鈴木副校長】

『学校経営計画、教育に関するアンケート調査結果、各学年の対外模試の成績推移、各課・学年の年度末反省について』

本年度も「授業で勝負する」学習指導の充実、知性、理性、感性を育む指導、生徒に高い進路目標を持たせ、目標に向かって邁進させる進路指導、心と健康づくりの推進、広報活動の5つを柱に進めてきた。

アンケート調査結果では、生徒の学習効果が上がったとする評価、1年生～3年生の学習に対する肯定的回答が目標を上回る結果で、それ以外も成果を見る結果であった。「学校満足度調査結果」では、1年生において昨年度との比較し、「本校に入学して良かったか」の質問は4ポイント上昇している。良い方向へ向かっていると評価できるのは、「読書」、「挨拶などの礼儀」、「勉強が楽しくなった」等の項目である。3年生は、昨年度と比較し、「挨拶」、「礼儀」、「学習意欲の高まり」、「勉強が楽しくなった」の項目で肯定的回答が大きく上昇している。保護者にも良い傾向が見られる。「子どもは担任と意思疎通ができています」、「部顧問と意思疎通ができています」、「教職員は生徒指導に熱心である」で肯定的回答が多くなる傾向が見られる。教員では「生徒は挨拶や礼儀が良い」、「生徒は読書をしている」、「生徒に本の紹介し読書を勧めるようにしている」、「生徒の規範意識は向上している。」の項目で肯定的回答が上昇していた。

模試成績の推移では、定点観測をして様子を見ている状況である。

昨年度をもってSSH事業は終了したが、今年度はSRH事業として、さらにバージョンアップした探求活動に取り組んでいる。2月23日(金)に発表会を開き、1年間の活動の成果を発表した。

【清川副校長】

『保健室利用と部活動結果について』

保健室の利用状況は1月までの保健室利用の延べ人数を示した。延べ人数なので、単純比較はできないが、昨年度比較で200人の減少であった。インフルエンザによる欠席は

最大でも1日10名程度で、実人数では57名の罹患であった。ほとんどがB型で先週は欠席が3名であった。外科的利用は6月が多かったが、体育大会や高総体の怪我によるものであった。利用者数には同じ生徒が複数回利用している場合も含まれている。「保健室利用の原因が心因性のものが多かった」という現状もあり、心と体の両面からサポートする必要あると考えている。

部活動に関しては様々な成果があり、中でも今年一番の成果は文芸部の活躍である。全国文芸コンクール文芸誌部門・小説部門で最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞し、日本一になった。そのほか優良賞、入選が多数あった。県高文祭自然科学部門では2年生の理数探求コース化学班の研究が最優秀賞になり、来年度全国高総文祭に出場する。その他、英語スピーチコンテストにおいて1年生の生徒が県で1位となり東北大会にも出場した。東北大会では3位入賞となりあと一步で全国大会という成績であった。運動部では、新体操、水泳、ボート、スキー、スケートがインターハイに出場した。また、愛媛国体では弓道部の3年生男子が岩手県選抜チームの一員として、遠的、近的ともに6位入賞、スケート少年男子では選抜チームの一員として出場した2000メートルリレーが3位入賞と大活躍であった。一方、新人大会ではボート男子ダブルスカルが県大会と東北大会で優勝、テニス女子初優勝、水泳は1年生ながらの優勝があり大活躍であった。その他、上位入賞も多数あり生徒たちは頑張っている。

(3) 各評議員からの質問・意見

【星評議員】

・模試の成績が3年生9月マークから極端に上位層が減っているのはなぜか。

【校長・副校長】

・この模試から浪人生が受験してくるので相対的に成績が下がったように見える。岩手県全体の傾向である。

【吉村評議員】

・教育に関するアンケートでは、同じ学年で比較するより1つの学年の追跡調査のほうが意味があると思うが、どういう考えで実施しているのか。

【鈴木副校長】

・両方の比較が必要ではないかと思っている。

【吉村評議員】

- ・最近は大学生もネットで調べる。ネットの情報が全て正しいわけではないが、生徒の図書館利用の状況はどうか。

【鈴木副校長】

- ・数は報告できないが、1年生では朝読書を実施した。学年全体で読書感想文だけではなく、読書レポートや小論文コンクールの推進しており、多読を進める取り組みをしている。

【吉村評議員】

- ・今の若者はあまりにもスマートフォンに頼りすぎているので、何が正しいかを考えていないと思う。これは三高だけではなく、世界中の問題であろう。

【鈴木副校長】

- ・読書の仕方として1学年では新書を読むように指導するなど一定のしほりをかけている。

【星評議員】

- ・PTA 研修旅行で大学に見学に行くことについてだが、お金もかかっており、親が行く意義はあるのかと考えている。PTA の予算は皆さんからいただいているお金なので、PTA 研修旅行を2年に1回にし、もっと生徒たちの支援にPTA 会費を使う方がいいのではないかと思う。

【校長】

- ・PTA 研修旅行は以前の半分の規模でやっている。

【星評議員】

- ・それでもまだ結構なお金がかかっているようだが。

【校長】

- ・他校は観光もしてPTAの親睦を図る目的で実施しているが、本校でアンケートをとると観光ではなく、大学に行きたいという声が出る。東北大学は説明・案内もあり、参加された方々からは好評をいただいたが、毎年いろいろな意見が出ている。

【土谷評議員】

- ・学校満足度調査ではアンケートは匿名で実施するのか。学校は楽しくないと答えた生徒が出たらどう対処しているのか。

【蒲生経営企画課主任】

- ・このアンケート結果を直接何かの指導に使うことはしていない。このアンケートは、平成18年から継続して実施しているものであり、経年変化を主に見ている。個人の様子を知る調査は別にあり、その情報は職員間で共有している。

【星評議員】

- ・生徒指導課の反省の中の「スマートフォンの使用状況を確認するアンケートを実施した」に関し評価Bとあるが、これは何か起きたのか。

【鈴木副校長】

- ・アンケート実施の方法や回数に関して改善の余地があるというもので、何かあったというわけではない。

【星評議員】

- ・中学校でもスマートフォン保有率が多いようだ。

【校長】

- ・本校ではスマートフォン利用に関するトラブルは発生していないが、心配はしている。教員を県教育センターの研修に派遣し、校内でモラル教育の伝達講習を行っている。家庭との連携も大切にしたい。

【佐藤評議員】

- ・小学6年生だと、親のものを使うという児童も含めるとスマートフォン所有率は半分越えていると思ったほうがよい。小学校でもスマートフォンの問題はある。

【鈴木副校長】

- ・最近ではスマートフォンを利用した授業というものもある。

【星評議員】

- ・使い方は難しい。

【校長】

- ・生徒指導協議会で「夜9時以降は使用をやめよう。」というのがあり、生徒会でも呼びかけてやっている。

【佐藤評議員】

- ・お礼になるが、勤務する小学校で、登校中の児童が高校生の男子生徒の自転車と接触したということがあった。生徒指導の担当者が市内の各高校に電話したが、三高の担当の先生が丁寧に対応して下さった。保護者の生徒指導に対する高い評価もその表れかと思う。本日体育館の授業を参観したが、ダンスの授業が成立するというのは、生徒間に互いの安心、安定がある証拠で、日常の細やかなご指導のおかげだと拝見した。